「一宮市介護保険事業計画及び
新高齢者保健福祉計画策定に関する
一宮市民実態・意向調査報告書」から

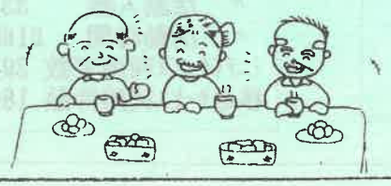
Q．一宮市の実態・意向調査はどんなふうに行われたでしょうか。
A．市内在住の40歳以上から無作為抽出及び施設入所者から無作為抽出調査人数4,408名、有効回収数4,016名に郵送又は面接で調査。

調査の対象	調査人数	調査方法	有効回収数
一般成人(40歳~64歳)	512名	郵送調査	409名(79.9%)
一般高齢者(65歳以上)	2,795名	郵送調査	2,471名(88.4%)
在宅 要援護高齢者	941名	民生委員・保健婦等による面接調査や郵送調査	581名(61.7%)
施設入所 〃	560名	施設の指導員等による調査	555名(99.1%)
合 計	4,808名		4,016名(83.5%)

☆一番必要なデーターになる在宅要援護高齢者の回収が悪く調査対象が少ない。
☆在宅要援護高齢者については全て面接調査が望ましいと思う。

どんな内容の調査だったのでしょうか
Q．調査対象者の生活状況の概要は
A．・各対象群とも若年者との同居世帯が最も多い。
・一般高齢者と在宅要援護高齢者は、高齢者本人と配偶者のみの世帯が多いが、施設入所要援護者では高齢者本人のみの世帯割合が多い。

Q．在宅要援護高齢者及び施設入所者の生活動作どんなレベル？
A．・在宅要援護高齢者が介助を必要とする割合が高い順に、入浴、着替え、歩行となっており、全面介助を必要としている人は半数以上。
・施設入所要援護高齢者は介助が必要とする順番が、入浴、着替え、意志の疎通の順であり、痴呆の発祥率が高くなっている。いずれも、入浴の要介助率は極めて高い。
・さらに、在宅要援護高齢者の方が、施設入所者よりも要介助の割合が高く、中でも歩行や食事についても差が大。
・痴呆の割合は在宅では15.5%に対し、施設では35.5%と高い。



Q．介護年数と状況はどうだったか
A．・要援護になってからの期間は3年以上が56.6%で最も多く、その中でも5年以上10年未満の比率が、平成4年度の調査より高くなっている。
・原因となった病気の第1位が脳血管疾患が多い
・日常生活の自立度は、在宅要援護高齢者では寝たきりで重い人が多いに対し、施設では介護度ランクは分散している。

Q．福祉サービスの認知度、利用状況、利用意向はどうだったか
A．・在宅要援護高齢者は、福祉用具の利用はあっても、その他のサービスを利用していないが過半数を占めている。
・一般高齢者でもホームヘルプサービスくらいの認知度はあるが、それでも内容把握は低い。
・在宅要援護高齢者では福祉サービスの利用率は低いものの、認知度は比較的高く、一般高齢者との差が大きい。

◎◎◎ 在宅要援護高齢者581人についての福祉サービス利用と今後の意向（調査報告から） ◎◎◎

	在宅要援護高齢者581人中 現在の利用頻度		今後の希望利用頻度		今後の希望
ホームヘルプ滞在型	103人	17.7%	137人	23.6%	週1回ではなく週1～4回の希望者が多い
巡回型	―	―	63人	10.8%	昼に希望が多く週2～3回希望している 夜を希望する人は週4回以上希望している
ショートステイ	160人	27.5%	224人	38.5%	今後は現在より多い回数を望んでいる
デイサービス	163人	28.0%	204人	35.1%	現在週1回が多いが、今後は週2～3回希望が多い
デイケア	58人	10.0%	100人	17.2%	現在半数が週2~3回だが、今後は週1～4回分散
訪問入浴サービス	165人	28.4%	218人	37.5%	現在月2～3回利用だが、今後は月4回以上が多い
訪問看護サービス	92人	15.9%	146人	25.1%	
福祉用具の利用	416人	71.6%	338人	58.2%	現在、車椅子(56.3%)とベッド(50.6%)と利用が高い
給食サービス	19人	3.3%	80人	13.8%	今後4倍の希望者。頻度は今後週5回以上希望が高い
リハビリ教室	30人	5.2%	81人	13.9%	現在、週3回の利用
訪問指導	99人	17.0%	159人	27.4%	現在年に1～2回訪問、今後は月に1回以上が多い

☆全般にどのサービス利用についても今後の希望回数は増えている
☆全面的に介助が必要な生活動作であり、次の介護者状況では、介護に疲れるが70%弱もあるにもかかわらず、なぜ、サービス利用が少ないか。
☆生活動作レベルでみられたように、入浴についての介助困難が反映してか訪問入浴希望が多い。